

技術者のさらなる発展に貢献 「建築設備士の日」記念行事

建築設備技術者協会（田辺新一会長）は18日、東京都江東区の芝浦工業大学豊洲キャンパスで「建築設備士の日記念行事」を開いた。冒頭あいさつした田辺会長は「改正建築士法で建築設備士が法律に位置付けられるとともに、建築物の省エネ基準適合が義務化した節目の年となった」とした上で、「今後、さらなる省エネを目指した質の高い建築が登場するだろう。ますます建築設備技術と技術者が発展することを願っている」と語った＝写真。

記念行事では、清水建設設備本部設備設計4部の今井田尚文設計長が「生長の家」*森の



中のオフィス。－日本初のゼロエネルギービル－と題して講演。今年度のカーボンニュートラル大賞を受賞した環境負荷低減事例を発表した。また、記念講演会として早大スポーツ科学学術員の問野義之教授が「2020年オリンピック・パラリンピックレガシー」をテーマに20年東京五輪で生み出すべきレガシーのあり方を語った。



建設通信新聞

2015年11月19日 001面 01版 No.06